

悪いことをする子にもちゃんと理由があるんだよと言える余裕

— 3 大学合同ゼミ合宿 2014 年 9 月 —

岡野内 正

#### <中国の鉄腕アトム>

最初の報告は、日本経済大学安井ゼミ留学生チームからの、中国の鉄腕アトムの話。手塚治は、大日本帝国時代の独裁政権下の日本で、西遊記の孫悟空の話モデルにした中国アニメを見て、ストーリー性のある漫画を描きたいと思った。中国では、文化大革命の後の、自由を楽しむ人々の気分の中で、鉄腕アトムが広く受け入れられていったという。特別ゲストのアニメ制作者で、手塚治のもとで長く働いていた方からの体験を踏まえたコメント（戦後日本の自由な雰囲気こそが日本アニメ発展の秘密だった！）を聞くうちに、こちらにも、いろんな思いが湧き上がってくる。大人になって、子どもが借りてきた鉄腕アトムの漫画本を何気なしに読んでいるうちに、感じた不思議な、自由で、ヒューマンな気分を思い出した。そう、手塚漫画の登場人物には、確かに悪人も登場するのだけど、悪人が悪いことをするのは、必ずそれなりの理由があることになっていて、根っからの悪人として描かれていない。だから、正義の味方も、単純に悪人をやっつけて殺してしまったりしない。…すべての人を善悪のどちらかに分けて、徹底的に糾弾して、多くの場合、集団でなぶり殺しにしていった文化大革命の時代。ようやくその暗黒時代が明けたときに、単純に悪人を決めつけて、やっつけてしまわない鉄腕アトムが人々に受け入れられたというのは、十分に理由のあることだと思う。

#### <人としての心の余裕>

『西遊記』の原作を読んだことはないが（読みたくなった！）、おそらく、すべての人間は仏として悟りを開く可能性を持つ（「一切衆生悉有仏性」）という仏教的人間観を反映して、やはり、どんな悪人にもそれなりの理由があるという人物設定になっているのではなかろうか。これまでテレビや漫画で見てきた断片的な孫悟空の話から推察すれば（孫悟空も猪八戒も沙悟浄も、みんな最初は手の付けられない悪党だった！）、おそらく若き日の手塚が見た中国アニメも、そのような設定になっており、まわりと同調しない自由人を「非国民」呼ばわりしていた、まるで文化大革命時代のような独裁政権下の帝国日本で育った手塚には、そんなストーリーが、なんともいえぬ魅力だったのではないかな。

およそ人間というものを単純に善人悪人と分類して、決めつけてしまわないような人間観。それは、人としての心の余裕からくるのだろう。心に余裕がないとき、人は、愚かな判断をくだしてしまうものだ。それにしても、日本の人々が、心の余裕を失って、侵略戦争に突進していた時に、中国にかくも余裕をもって心を磨いていた人々がいたことは驚きであり、すばらしいことだ。

### <心の余裕と平和をつくる文化>

アニメに続いて、中国の人口政策や、期限切れ鶏肉事件を扱った同じ留学生グループの報告も、自分の国のことをここまで冷静に議論できる若者たちの心の余裕が感じられて、興味深いものだった。

立命館大学国際関係学部南野ゼミと法政大学のわたしのゼミのチームは、どちらも「東アジア共同体の可能性」を共通テーマに。南野ゼミは、領土問題、従軍慰安婦や南京大虐殺の謝罪・補償問題などの前提となる歴史認識の深刻な対立をふまえて、最近の日本でのアジアからの留学生の増加に希望を見出す。中国の留学生からは、中国での日本の留学生も大事だとのコメントも。わたしも、客観的・物理的世界でのできごととして、人間行動についての事実関係の解明を、名探偵コナン君式に「真理は一つ」の精神でやっていくこととあわせて、そのようなできごとが、それぞれの国の人々の間での主観的世界ではどのようにとらえられているか、そして個人の内的世界にはどのようなトラウマや心の傷を残しているか、…そんな3つの世界（ポパーの問題提起をハーバーマスが「コミュニケーション的行為の理論」で発展させたやつ）の違いをふまえて歴史認識の議論をしていく必要があるね、などとコメント。いずれにせよ、じっくりと議論していくには心の余裕が必要だ。

### <心の余裕を支える生活の余裕>

その余裕がなくなってきているのが、日本を含むアジア諸国の人々。グローバル化による多忙化、就業の不安定化などがその原因だ。…法政大学のわたしのゼミ生グループは、そんな人びとの境遇の変化を踏まえて、まずはアジア諸国の人々の間で、生活の余裕を支えられるような経済協力の在り方をさぐる必要があるのでは、という問題提起。多国籍企業の自由だけを保障するような貿易や投資のボーダーレス化ではなく、人々の間での生活の余裕を保障しあえるような経済協力協定。…（ははは。ゼミの予行演習では、ベーシック・インカム導入なんかどう？と水を向けておいたのだが、本番の報告ではその部分は却下。どうもイメージしにくいようだ。）…さらにそのような東アジア共同体への方向をとれば、沖縄は、米軍依存から脱却できるので基地問題を解決し、さらに非武装の貿易・交流の地として発展できるのでは、という問題提起。

### <バーベキュー大会>

会場の八王子セミナーハウスでバーベキューをするのは初めてだったが、肉も野菜もたっぷり。夕食時間は、ビール片手に大いに盛り上がる。アルバイトで調理をする留学生のやきそばや特別料理も。…隣で肉を焼いていたゼミ合宿の帝京大学の学生たち。いちおう教員に挨拶をすれば、なんと、共通の知人のいるグアム先住民の研究者。かつてゼミでグアム先住民スタディ・ツアーをやったことがあるので、なんだかんだと話すうちに、グアム先住民のチャモロ人のチャモロ・ダンスをゼミ生が習ってるというので、披露してもら

うことに。ハワイアン系の動きとバケツで代用するドラムのリズム。…お礼にと、こちらは、ゼミでもアイヌ民族のことをやっていたころに覚えたアイヌ民族のバッタの踊りをみんなで。…踊りいいなあ、という声があちこちから。今度からは、踊りの時間も組み込むかな。

<卒業生、社会人学生たち>

立命も、日本経済大学も、昨年参加していたゼミ卒業生が顔をだしてくれる。(私のゼミの卒業生も、来るはずだったのが、仕事の都合で無理に。) 安井氏が公開講座などで声をかけた受講生の大人たち(コメントをしてくれたアニメ制作の方もそう)も、この集まりに幅を持たせてくれる。…夜の飲み会では、教員たちでスコットランド独立の話や、スイスの直接民主主義の話、スイスのベーシック・インカム国民投票の話、はたまた、日本の大学の危うい状況について、それぞれの経験を交えた話で大いに盛り上がる。来年は中国でやるか、などという話もでて、これからも面白い展開になってきそう。

今回は、わたしのゼミがコーディネートをし、わたしの監督ミスで、ゼミ生の何人かには特に負担を集中させてしまったが、なんとか乗り切ってくれた。南野、安井両氏をはじめ、参加してくれた人たちみんなに感謝。日曜日の靖国神社博物館と江戸東京博物館の批判的観覧に分かれたあとの浅草ツアーも盛り上がったみたい。…こんな集まりの中から、少しでも心の余裕が生まれ、生活の余裕を保障しあうような関係に発展していくことになれば、ほんとうにうれしい。(2014年9月28日)